

農 畜 第 6 8 0 号
令 和 7 年 1 月 2 8 日

静岡県経済農業協同組合連合会代表理事理事長
静岡県開拓農業協同組合連合会代表理事会長
静岡県農業共済組合組合長理事
公益社団法人静岡県獣医師会会長理事
公益社団法人静岡県畜産協会長
一般社団法人静岡県配合飼料価格安定基金協会理事長
静岡県養豚協会長

様

静岡県経済産業部農業局畜産振興課長

国際連合食糧農業機関(FAO)による春節におけるアフリカ豚熱の警告
を踏まえた関係機関における連携強化について

このことについて、農林水産省消費・安全局動物衛生課長及び農林水産省農村振興局農村政策部鳥獣対策・農村環境課長から別添のとおり通知がありましたので、お知らせします。

春節時期は、海外からの旅行者の増加が見込まれ、アフリカ豚熱の感染拡大リスクが高まるため、飼養豚及び野生いのししでのアフリカ豚熱感染防止対策の推進や万一の国内発生時に備えた関係者との連携体制を一層強化することが重要となります。

については、貴管下関係者への周知活動を通じた連携強化及び飼養衛生管理の徹底についての指導をよろしくお願いいたします。

担 当 家畜衛生防疫班
電話番号 054-221-2743

6 消安第 5794 号
6 農振第 2294 号
令和 7 年 1 月 14 日

各都道府県家畜衛生・鳥獣対策担当部長 殿

農林水産省消費・安全局動物衛生課長
農林水産省農村振興局農村政策部鳥獣対策・農村環境課長

国際連合食糧農業機関（FAO）による春節におけるアフリカ豚熱の警告を踏
まえた関係機関における連携強化について

今般、国際連合食糧農業機関（FAO）から、春節時期におけるアフリカ豚熱の感染拡大リスクが高まることについて、別紙のとおり警告が発出されました。

本警告では、「林業及び環境当局並びにイノシシの個体群と接触している狩猟管理当局と緊密に協力し、情報を共有し、アフリカ豚熱の監視及び予防活動を共同で実施することで、潜在的なウイルスの侵入に備える。」とされています。

我が国においても、春節を迎え、海外からの旅行者の増加が見込まれるところ。野生いのししでのアフリカ豚熱感染防止対策の推進及び万一の発生時における的確な防疫措置の実施のため、関係省庁、各都道府県及び関係団体間における連携をさらに強化することは重要です。

つきましては、アフリカ豚熱対策に関する関係者会議の実施、防疫演習、周知活動等を通じて連携強化に御対応いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本件については別添のとおり、関係省庁、各地方農政局及び一般社団法人 大日本猟友会宛てに通知していることを申し添えます。

【仮抄訳】FAO（国連食糧農業機関）による春節シーズンの アフリカ豚熱拡大リスクに関するアラート

FAO は、春節シーズンにおけるアフリカ豚熱（ASF）に対する警戒と準備の強化を求めている。ASF の発生は、アジア太平洋地域や世界各地で報告され続けており、2018 年以降、アジアのほとんどの国に拡大している。この疾病は家畜及び野生の豚に影響を与え、ヒトの健康には脅威を及ぼさない一方で、食料安全保障、生計、経済に甚大な影響を及ぼす。

過去1年間で、アジア太平洋地域の複数の国が ASF の新規発生を国際獣疫事務局に通知した。これには、バングラデシュ、ブータン、中国（香港特別行政区）、モンゴル、ネパール、フィリピン、韓国、タイが含まれる。

フィリピンでは、動物産業局が ASF 発生に関する更新情報を引き続き公開している。インドネシアでは、政府が 11 州で新たな ASF 症例を確認した。インドとベトナムの地方自治体も最近 ASF の発生を発表した。さらに、スリランカは 2024 年 10 月 25 日付の官報を通じて同国初の ASF 症例を確定し、WOAH に通知した。

人の活動は ASF の世界的な拡散において重要な役割を果たす。ASF ウイルスは、生のソーセージ、ハム、加工肉製品において数ヶ月間感染力を維持することがある。生の豚肉や残飯の給与は、ASF ウイルスの主な侵入源及び感染経路である。家畜や動物製品の世界的な移動・取引の活発化に伴い、ASF ウイルスが清浄国に持ち込まれるリスクが高まっている。発生国から帰国した観光客、出稼ぎ労働者、学生、ハンター等が偶然に持ちこむ、あるいは個人使用または商業目的で意図的に密輸することによる、豚肉製品の違法または非管理下の輸入が継続的な脅威となっている。これらの侵入経路に対する注視は、とりわけ 2025 年の春節期間中及びその前後は、人、豚肉製品、そして動物の移動が増加するため、極めて重要である。

<推奨される措置>

- リスク分析に基づいて水際等における検査を強化し、潜在的に汚染された豚肉製品の持ち込みリスクを最小限に抑える。
- 農場におけるバイオセキュリティ及び飼養管理を改善し、家畜及び野生の豚への ASF ウイルス侵入リスクを低減する。
- ウイルスの早期発見、即時通報及び迅速な封じ込め対策を確保する。
- ウイルス検出の可能性が高い動物（死亡直後の動物等）を対象としたターゲットサンプリングを実施する。
- 特にワクチン接種が行われている地域や、組換え ASF ウイルスが確認された、または導入リスクがある地域において、能動的サーベイランスを検討する。
- 林業及び環境部門、ならびに野生豚と接触する狩猟管理当局と緊密に協力する。
- 民間部門（生産者や通関業者等）と連携し、早期の通報及び対応を促進する。
- 啓発キャンペーンを強化する。

- (1) 原因：アフリカ豚熱ウイルス (African Swine Fever virus)
- (2) 宿主：豚、いのしし (ダニによっても媒介) ※人には感染しない
- (3) 分布：アフリカ、欧州の一部 (ロシア及びその周辺国、東欧) のほか、平成30年8月に中国で発生 (アジアで初の発生) 以降、アジア地域での発生が拡大。訪日外国人の増加、畜産物の違法輸入件数の増加により、日本への侵入リスクの増大。

※ 日本未発生。

- (4) 症状：甚急性～不顕性まで幅広い病態を示す。
現在の世界流行株では急性経過で死亡。

※ 豚熱に酷似するがより病原性は強い傾向。

※ ワクチン、治療法はない。

※ ウイルスは環境耐性があり、食肉・死体等でも長期に感染性保持。

→感染動物は急激に弱る・死亡＋死体のウイルスは長期間残存

→イノシシ感染事例では死体対策が極めて重要



【全身の出血性病変、チアノーゼ】

(出典：Veterinary school of Barcelona, Spain Centro de Vigilancia Sanitaria, Veterinaria, Spain)

豚熱とは (参考)

- (1) 原因：豚熱ウイルス (Classical Swine fever virus)
- (2) 宿主：豚、いのしし ※人には感染しない
- (3) 分布：欧州、アジア、アフリカ、南米の一部の国々
※ 我が国では平成30年9月に26年ぶりに発生。
飼養豚では23都県、野生イノシシでは38都府県で発生
(令和6年12月時点)。
- (4) 症状：急性、亜急性、慢性型等多様な病態を示す。発熱・白血球減少。
※ 有効なワクチンが存在



【皮膚紫斑 (しはん)】
(出典：動物衛生研究部門)